

大興寺山古墳(児玉郡美里町)

だいこうじやま

正面が大興寺山古墳/円墳/6世紀半ばの築造らしい/大興寺裏山(東側)にある尾根沿いの道を北から南方向へ来ると右手にある



近づいて見たところ/北東側から見たところ



左手を見る



右手を見る



墳丘を登る階段がある



階段を登ると正面墳頂に小祠が見える



こんな感じ



墳頂から東方向を見下ろしたところ/下に尾根沿いの道が見える



登った階段を見下ろしたところ



階段を下りて墳丘の周りを反時計回りに廻ってみる/北西側から見たところ



北側から南方向を見たところ



西側から墳丘を見上げたところ



南側の斜面を東側から西方向に見たところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.cocacn.jp/archive/index.php/misato_daikozi/

<http://members3.jcom.home.ne.jp/kofun2-hp/saimisat9.htm>



参考(大興寺)

正面の山の中腹に大興寺の墓地が見えるが、その背後の山中に大興寺山古墳がある



ここから境内に向かう/右手の標柱に「伏龍山大興禪寺」とある



正面が山門/右手前に説明板が立っている



大興寺には南北朝期に大興寺を再興した禅僧の肖像画がある/埼玉県指定文化財



山門の右手にも説明板がある



大興寺

所在地 児玉郡美里村大字広木

当寺は、伏龍山大興寺といい、臨濟宗妙心寺派に属している。本尊は釈迦如来で、児玉三十三霊場第十二番になっ

ている。創立は天徳年間（九五七〜九六一）と伝えられ、当初は慶徳山大光禪寺と称した。その後廃寺となり、ただ名だけが残っていたところを、小倉左中将元英という人が、陽嶽元照を招いて嘉慶元年（一三八七）に再興し、寺名を大興と改めた。このため元照を開山とし、元英を開基としている。慶安二年（一六四九）には三代将軍家光より寺領一〇石の御朱印を賜っている。

当寺には、県指定文化財の元照和尚画像がある。絹本着色で縦九十七センチメートル、横四十三センチメートルあり、曲糸に坐った元照の法衣姿が綿密に描かれ、威厳のある禅僧の姿をよく保っている。彩色が剝落したところもあるが、南北朝時代のすぐれた肖像画として貴重なものである。

昭和五十八年三月

さまざまな石造物がある



正面左手が本堂





左手に本堂の屋根が見えるが右手の山中に大興寺山古墳がある

